

寺田ゼミはヨーロッパ近代の知・思想の森のフィールドワークをめざす。

2013 寺田元一

17、18、19 世紀ヨーロッパ、なかでも、18 世紀フランスの知・思想・文化の森の冒険
(2 年後期) 3 年前期はできるだけ多くの本を「点検読み」(アドラーとドーレン『本を読む本』講談社学術文庫) することで、この知・文化の森を広く浅くフィールドワークする。
1 週間に 1 冊、半期で 15 冊を目標とする。

対象とする文献は、近世・近代のヨーロッパの歴史や思想史の本が中心となる。
同時に、絵画や音楽、映画などを含む文化関係の本も読んで、総合的知識を得る。
また、フランス語力を高めるためにフランス語のテキストを読んだり、仏検の過去問をやったりする。

現代のフランスへの冒険

3 年の夏休みにフランスに短期語学研修に行くことを推奨。フランス語の聞き取りと会話の能力を磨くだけでなく、現代のヨーロッパ(特にフランス)をよく観察、体験、調査する。
それまでに本などを通じて知った近代ヨーロッパとの共通性や相違を検討する。
卒業研究の対象として深く掘り下げられそうなテーマを発見する。

フランスの知と文化の深い読解とその論文化

3 年生の後期と 4 年生の前期は、卒業研究のテーマに即した知を深く読解するために資料(本)を「分析読み」する。半期で 3 冊が目標。対象としては、18 世紀フランスを中心とする思想関係のものが望ましいが、18 世紀フランスの政治、社会、文化、あるいは、17、19 世紀のフランスを中心とする思想でもよい。

なお、「分析読み」とは、本や著者という対象に寄り添い、その声を丹念に聞き取る「読み」である。そのために、本の概略をまず明らかにし、次に、その内容を著者(のキーワード、主要命題、論証など)に密着して解釈し、最後に、十分な根拠を挙げながら本の長所・短所を批評することになる。

4 年の夏休みと後期は「シントピカル読み」による卒業論文の作成。「シントピカル読み」は自分の卒論のテーマ(トピック)に即して、これまで読んできた資料から関連する知を引き出し、関連づけ、自論を組み立てる「読み」である。

寺田ゼミのこれまでの卒業論文の題目の例

「ジャンヌ・ダルク像の変化----虚像と「実像」----」
「エリック・サティと新しい音楽」
「シャルル・ペローと民話の世界」
「カトリーヌ・ド・メディシスのフランスにおける文化的貢献」
「シャルトル大聖堂とステンドグラス」
「マリー・アントワネットと子育て」
「オスマンの緑地整備」、「フランスの都市計画」
「アダム・スミスの考える「公平な観察者」をどのようにとらえるか」
印象派の絵画を扱ったもの(複数)、ココ・シャネルなどファッション関係(複数)など

(従来寺田ゼミは国際文化学科のゼミということもあって、フランス文化を多面的に扱った卒論が多く書かれてきたが、今後は 18 世紀フランスを中心に思想関係も重視していく予定)

その他：ゼミ合宿、ゼミコンパなどを通じた親睦

質問がある人は寺田元一研究室(631)を直接尋ねてください。たいてい研究室にいます。

それからゼミの実際を見たい人は水曜日の 2 時半頃に 609 ゼミ室に来て下さい。